

【学力向上フロンティアスクール用中間発表報告書様式】（小学校用）

都道府県名	東京都
-------	-----

学校の概要

学校名	東京都江戸川区立下小岩小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	0	12	18
児童数	44	45	73	58	60	60	0	340	

研究の概要

1, 研究主題

感じよう、伝え合おう  
～国語科 話すこと、聞くことの活動を通して

2, 研究の内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・実施学年：1年～6年
- ・実施教科：国語

国語を選択した理由：

学習を主体的に進めるには、文字や音声言語等から、必要な情報を読み取り、理解し、整理することが必要である。また、学習の成果を、文にまとめたり、音声で発表したりすることが必要である。さらに、コミュニケーション能力・知的活動、そして感性・情緒などの基盤となる国語力はこれからの時代に求められるものである。そこで、本校では、国語科を中心とした研究を行うことにした。

研究テーマを「話すこと・聞くこと」に焦点化した理由：

平成13年度まで生活科・総合的な学習の研究を行った。自ら興味ある対象を学習したこともあり、いきいきと活動していた。しかし、資料収集のためのインタビューをさせると、大切な事柄を聞き出したり、自分の考えを相手に正しく伝えることが苦手であるという課題がでた。

また、生活科・総合的な学習の時間の学習の最後に実施した学習発表会では、意見交換が不十分であったり、お互いに考えを出し合うことが不十分であるという課題も出た。学習をより充実・深化・発展させるためには、「話すこと・聞くこと」の指導が重要であるとの認識に至った。

そこで、平成14年度から、「話すこと、聞くこと」を研究の対象とした。

系統的に学習の積み重ねができることと、学校全体の学力の向上を図ることにが可能であるため、全学年が同一テーマで研究することにした。

(2) 年次毎の計画

平成15年度	<p>テーマ 感じよう、伝え合おう～国語科 話すこと、聞くことの活動を通して 指導と評価の一体化を通して学力向上を図る。 言語環境を整備し、教材を開発して学力向上を図る。</p> <p>研究の見通し(仮説) 音声言語を対象とした評価は、文字のようにその場に残ることがないために、評価することが難しい。具体的な評価方法や、自己評価、児童相互による評価など多面的に評価をして指導支援に生かすことができる。また、言語環境に配慮した学校、教材の開発を進めることで、児童の国語力が高まることが予想される。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す、聞く」ことについての児童の実態調査</li> <li>・各学年1回ずつ授業研究を行う。</li> <li>・「話す、聞く」に関して年間指導計画を作成する。</li> <li>・読書環境の整備(図書館の充実、図書ボランティアの活用)</li> </ul>
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成	<p>研究の見通し(仮説) 評価や指導に関して新たに追加すること</p>
----	------------------------------------------

16年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導と評価の一体化が簡単にできるような評価カード、評価記録一覧表の見直し</li> <li>・話し合いを具体的に進める手本となるサンプルの効果的な使用法を探る。</li> <li>・さらなる、教材開発を進める。</li> <li>・「話す・聞く」活動を充実させることが、学力向上に結びつく具体的事例を集め、検討する。</li> </ul>
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

研究推進委員会（テーマに迫るために・指導案の形式・環境等）  
 学年部会（低・中・高学年部会）専科も中に入る  
 授業研究は学年部ごとに提案  
 いきいきタイム委員会とのタイアップ  
 P T A 読書ボランティアの協力

平成15年度の研究成果及び今後の課題  
 1, 研究成果

- ・「話すこと、聞くこと」の年間計画を作成し、国語科の授業だけでなく日常活動でも目標をはっきりさせて計画的に取り組むことができるようになった。
- ・サンプルの提示や司会カードの活用によって、話し合うことに抵抗が少なくなり、組み立てを考えて話すことができる子が増えた。
- ・昨年度からの活動である校長講話の聞き取りは、「聞き取りピンゴ」や「聞き取りピラミッド」の活用により、話のキー・ワードをつかむ力がついた。また、それを使用して話を要約する力がついてきた。
- ・評価規準と評価結果に応じた手立てを指導案に記述することにより、評価と指導の一体化が図れるようになってきた。

2, 今後の課題

- ・「話すこと、聞くこと」の音声言語の活動は消えていくものなので指導や評価が難しい。子どもたちの自己評価や相互評価を指導に生かせる工夫が必要で、さらに研究を続けていきたい。また、教師の児童観察のためのカードも工夫していく必要がある。
- ・指導と評価の一体化を目指してきた。評価結果に応じた支援の工夫や教材の開発を進める。また、簡単にできる評価方法や評価記録の開発を進める。
- ・読書量だけでなく、読書環境を充実させて、読書の質を高める。
- ・「話す・聞く」活動を充実させることが、学力向上に結びつく具体的事例を集め、検討する。

学力等把握のための学校としての取り組み

- ・意欲・関心については、アンケート調査で昨年度と比較する。
- ・一般化された学力テストの使用も考える。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・学校公開や授業研究で全国に公開発表をして、多くの方からご意見をいただき、より深い研究にしていく。
- ・区の発表の機会を生かして学校関係以外の方からのご指導、ご指摘を仰ぐ。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	> 15年度からの新規校 > 14年度からの継続校
【学校規模】	6学級以下 > 7～12学級 13～18学級 > 19～24学級 25学級以上
【指導体制】	少人数指導 > T、Tによる指導 一部教科担任制 > その他
【研究教科】	> 国語 社会 算数 理科 生活 音楽 図画工作 家庭 体育 その他
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有 > 無